

トラック輸送情報（平成24年10月分）

平成25年1月7日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

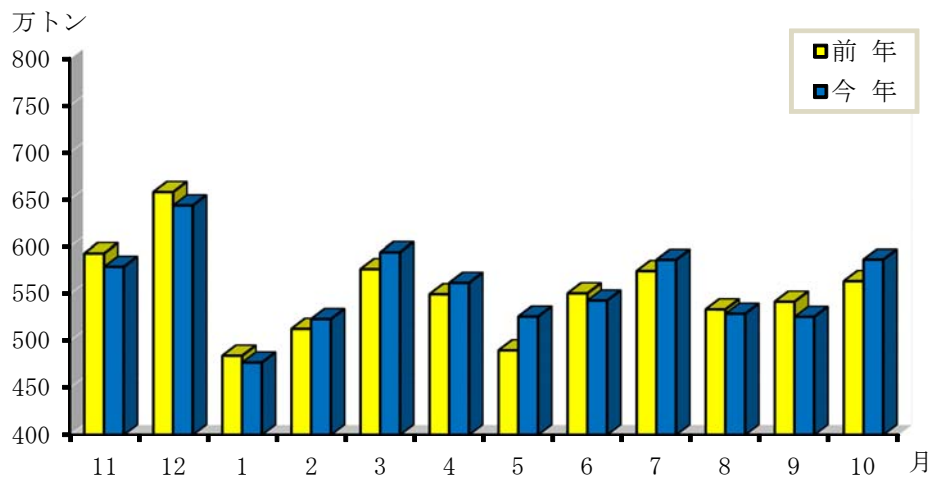
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

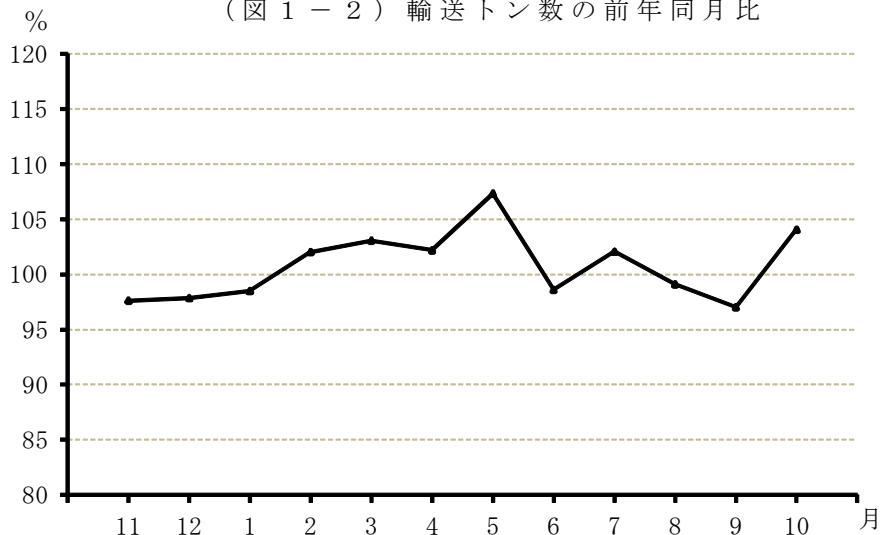
調査対象25社の本月の輸送量は、5,868,428トンで、前月と比べ総輸送量が約609千トン増加したため、前月比111.6%（季節調整済み99.2%）となり、前年同月との比較では、約229千トン増加したため、前年同月比104.1%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は24.2日で、前月と比べ2.5日増加し、前年同月との比較では、0.1日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、242,497トンで、前月と比べ約0.1千トンの微増だったため、前月比100.0%となり、前年同月との比較では、約9千トン増加したため、前年同月比103.6%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



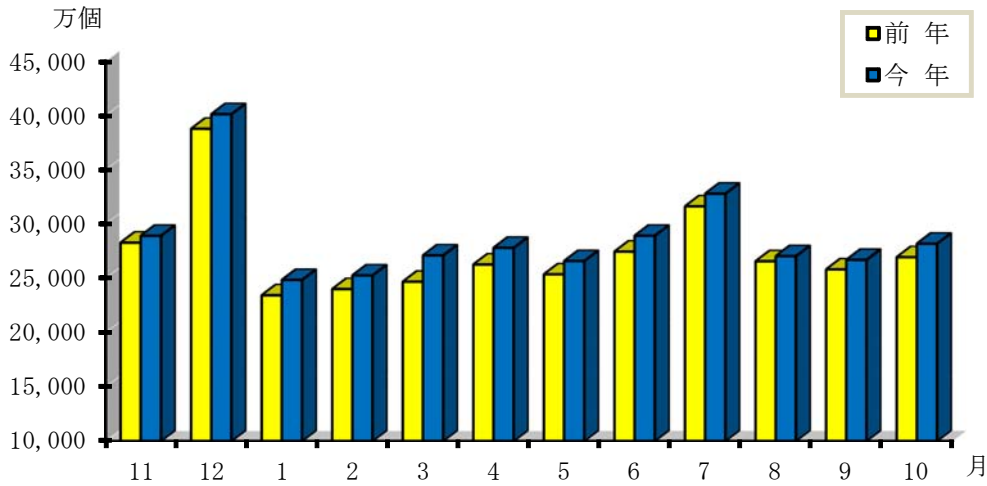
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



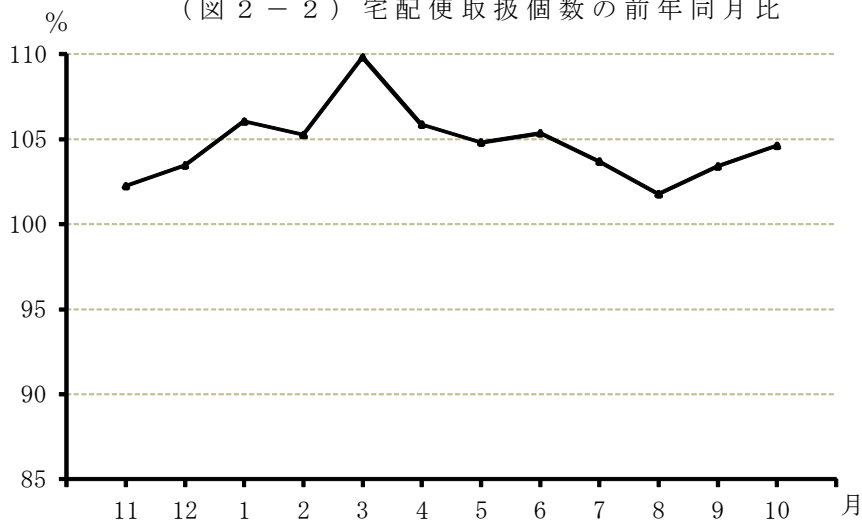
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、282,047 千個で、前月と比べ 約 14,904 千個増加したため、前月比 105.6% (季節調整済み 99.6%) となり、前年同月との比較では、約 12,437 千個増加したため、前年同月比 104.6%の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社(25 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「農水産品」を除き、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が「農水産品」、「その他」を除いて見られたほか、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」で見られた。「機械」の主な増加地域は関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国で、「化学工業品」の主な増加地域は関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿であった。

前年同月と比べると、「農水産品」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」、「日用品」で輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。工場・生産地や倉庫からの貨物増が「日用品」で、工場・生産地からの貨物増が「食料工業品」で、倉庫からの貨物増が「化学工業品」で見られた。「化学工業品」の主な増加地域は神奈川で、「食料工業品」の主な増加地域は関東であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	12	2	1		
	金属製品		6	13	2		中部	4
	機 械		8	12			関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	化学工業品		8	12	2	合成樹脂	関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿	4, 7
	繊維工業品	3	1	15	3			4
	食料工業品	1	5	14		製造食品	関東	4
	日 用 品	1	9	11	1	その他の日用品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿、中国	4
	そ の 他	1	5	12	3	1	その他(百貨店配送品)	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	3	12	1	1		
	金属製品		3	17	1			
	機 械		2	17	1			
	化学工業品	1	5	13	3	合成樹脂	神奈川	7 4
	繊維工業品	1	2	17	2			
	食料工業品	1	7	12		製造食品、飲料	関東	4
	日 用 品	1	6	11	3	その他の日用品		4, 7
	そ の 他	2	3	12	2	3	その他(百貨店配送品)	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者791社/調査対象事業者数1,067社)の輸送量は、前月比 110.0%、前年同月比 103.1%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	103.1 %	106.1 %	107.6 %	100.8 %	102.7 %	100.5 %	104.2 %	103.0 %	100.6 %	96.2 %	103.3 %	
前 月 比	110.0 %	117.3 %	109.4 %	106.9 %	107.6 %	103.8 %	106.4 %	107.2 %	105.3 %	111.3 %	115.7 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比117.3%、対前年同月比106.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「その他の農産品」、「その他の石油製品」、「日用品」が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「セメント」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また工場・生産地からの貨物増等により「野菜・果物」、「木材」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」が、季節的需要減等により「野菜・果物」、「化学肥料」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比109.4%、対前年同月比107.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」、「その他の製造工業品」、「動植物性飼・肥料」、「取り合せ品」が、輸出入貨物の増等により「木材」が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「金属製品」、「セメント」、「その他窯業品」、「その他の石油製品」が、工場・生産地からの貨物増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比106.9%、対前年同月比100.8%であった。品目別では、季節的需要減等により「野菜・果物」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比107.6%、対前年同月比102.7%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増等により「金属製品」が、建設関連の需要増等により「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比103.8%、対前年同月比100.5%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響により「水産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比106.4%、対前年同月比104.2%であった。品目別では、輸出入貨物の増等により「金属製品」、「日用品」が、デパート・スーパーの貨物増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」が、季節的需要減等により「紙・パルプ」が、景気の影響により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比107.2%、対前年同月比103.0%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増等により「穀物」、「化学肥料」、「紙・パルプ」、「動植物性飼・肥料」、「食料工業品」が、季節的需要増等により、「非鉄金属」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「食料工業品」が、景気の影響等により「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比105.3%、対前年同月比100.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」、「揮発油」、「食糧工業品」が、工場・生産地からの貨物増等により「その他の窯業品」、「紙・パルプ」が、建設関連の需要増等により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「機械」、「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比111.3%、対前年同月比96.2%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」、「水産品」、「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要増等により「金属製品」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増等により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比115.7%、対前年同月比103.3%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増等により「木材」、「日用品」、「金属くず」が、建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減等により「その他の石油製品」、「その他の化学工業品」、「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	2	9		1		1	2	2	3		20
	減								1	1		2
2. 野菜・果物	増	9	3		3			1	4	9		29
	減	3	2	1				2	1	2		11
3. その他の農産品	増	7			1							8
	減									2		2
4. 畜産品	増								1	1		2
	減	1										1
5. 水産品	増	1	1		1			1		3		7
	減	2				1				1		4
6. 木材	増	2	2			1		1	1	2	2	11
	減								1			1
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1								1		2
	減	2						1		1		4
9. 金属鉱物	増											
	減				1							1
10. 砂利・砂・石材	増	7	3			3		2	1	2		18
	減	4						3		2		9
11. 工業用非金属鉱物	増		1					1	1	1		4
	減		1					2	2	1		6
12. 鉄鋼	増		2		1	1		3	2	5	1	15
	減				1	1			2	2	1	7
13. 非鉄金属	増			1				2		1		4
	減		1		1				1			3
14. 金属製品	増	1	2	1	3		2	4		5		18
	減	1		1			2		1	1		6
15. 機械	増	1			2	2	1	5	3	2		16
	減		1	1	2	1	1	2	2	1	1	12
16. セメント	増	3	2		3	2		2		5		17
	減		1			1				1		3
17. その他の窯業品	増	2	3		2	1		1	2	3		14
	減								2			2

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増				1				3			4
	減											
19.その他の石油製品	増	5	2					1		1		9
	減					1					1	2
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21.化 学 薬 品	増	1			1		1	1		1		5
	減									1		1
22.化 学 肥 料	増		1		1		1	2		1		6
	減	2										2
23.その他の化学工業品	増						1	3	1	2		7
	減						1	3	1	1	1	7
24.紙 ・ パ ル プ	増	2	1	1			1	4	3	2		14
	減				1		2			1	1	5
25.織 維 工 業 品	増						1					1
	減				1				1			2
26.食 料 工 業 品	増		4				2	3	3	3		15
	減	4	2		2		2	4		4		18
27.日 用 品	増	2			2		4	1		1	2	12
	減				1	1		1		1		4
28.その他の製造工業品	増		2			1		2		1		6
	減											
29.金 属 く ず	増										1	1
	減											
30.その他のくずもの	増											
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	3	2	1				2		6		14
	減	3		1						1		5
32.廃 棄 物	増	1	2					1		1		5
	減		1					2				3
33.輸 送 用 容 器	増				1					2		3
	減								1			1
34.取 り 合 せ 品	増	1	2					1	1	1		6
	減							4				4
35.そ の 他	増		1	2	2	1	3	2	1	6		18
	減	1		1	2		2		1	3		10